

氏名	山田恵子	部署	共通教育科	職名	准教授
研究分野	整形外科学（運動疫学、ロコモティブシンドローム）、公衆衛生学（ヘルスリテラシー）、医療情報学				
学位	博士（医学、東京大学）、修士（医療政策管理学）、修士（公衆衛生学）				
学歴	東京大学医学部医学科卒業、東京医科歯科大学大学院医療政策学修士課程終了、Harvard School of Public Health 公衆衛生学（Clinical effectiveness）修士課程修了				
経歴	2018～ 東京大学医学部附属病院 企画情報運営部 助教 2022～ 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 准教授				
所属学会（役職）	日本整形外科学会、日本リハビリテーション学会、日本運動器科学会、日本老年医学会、医療情報学会、American Association of Health Care Journalists				

【2022年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月	
1	医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き(第2版)	共著		医療情報をわかりやすく発信するプロジェクト, 60P	一家 綱邦, 市川 衛, 井出 博生, 井上 悠輔, 大江 和彦, 小川 留奈, 風間 浩田中 牧郎, 田中 祐輔, 野口 真理子, 早川 雅代, 山口 育子, 山田 恵子	2023.3	
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	【最新の骨粗鬆症学(第2版)-骨粗鬆症学の最新知見-】概論 ロコモティブシンドロームと骨粗鬆症	共著	なし		日本臨床 81(増刊1 最新の骨粗鬆症学) 30-35	中村 耕三, 山田 恵子, 大江 隆史, 吉村 典子, 田中 栄	2023.1
2	Practical guidance to handle missing values in the 25-question Geriatric Locomotive Function Scale (GLFS-25): a simulation study	共著	あり	○	BMJ Open 12(12) e065607	Takuya Kawahara, Keiko Yamada, Ryohei Terashima, Ikumi Takashima, Sakae Tanaka, Toru Ogata, Hirota Chikuda, Hiromasa Miura, Kozo Nakamura, Takashi Ohe	2022.12
3	運動や運動器に関連した疾病予防や健康維持・改善に関するIoTを用いた取り組み	単著	なし		医療情報学連合大会 論文集(CD-ROM) 42nd	山田恵子	2022.11
4	Feasibility and applicability of locomotive syndrome risk test in elderly patients who underwent total knee arthroplasty.	共著	あり	○	Modern rheumatology, Epub ahead of print.	Toru Ogata, Keiko Yamada, Hiromasa Miura, Kazunori Hino, Tatsuhiko Kutsuna, Kunihiko Watamori, Tomofumi Kinoshita, Yasuyuki Ishibashi, Yuji Yamamoto, Tomoyuki Sasaki, Shuichi Matsuda, Shinichi Kuriyama, Mutsumi Watanabe, Tetsuya Tomita, Masashi Tamaki, Teruya Ishibashi, Ken Okazaki, Hideki Mizu-Uchi, Shojiro Ishibashi, Yuan Ma, Yoichi M Ito, Kozo Nakamura, Sakae Tanaka	2022.7
5	Reply to letter to the editor by Kobayashi et al.	単著	あり	○	J Orthop Sci. 2022 Sep;27(5)	Keiko Yamada	2022.7
6	Frequency-Response Relationship Between Exercise and Locomotive Syndrome Across Age Groups: Secondary	共著	あり	○	Modern rheumatology 33(3) 617-622	Satoshi Yamaguchi, Keiko Yamada, Yoichi M Ito, Takeshi Fuji, Kimihito Sato, Takashi Ohe	2022.6
7	COVID-19パンデミックによる身体活動の変化について ロコモチャレンジ!協議会アンケートの結果から	共著	あり		日本臨床整形外科学会雑誌 47(1) 83-84	山田 恵子, 山口 智志, 佐藤 公一, 富士 武史, 大江 隆史	2022.5

(3) 学会発表					
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	腰部脊柱管狭窄症の周術期におけるロコモ25の変化予測	共同	第5回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	○千田洸平, 山田恵子, 緒方徹	2022.11
2	シンポジウム 運動や運動器に関連した疾病予防や健康維持・改善に関するIoTを用いた取り組み	単独	第42回医療情報学連合大会	○山田恵子	2022.11
3	医学系研究の用語に対する専門家と一般の人の理解度の違いについての検討: 「医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き」作成のための調査結果 第3報	共同	日本ヘルスコミュニケーション学会	○山田恵子, 井出博生, 早川雅代	2022.10
4	医学系研究の用語の分類および一般の人の認知および理解の特徴: 「医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き」作成のための調査結果 第2報	共同	日本ヘルスコミュニケーション学会	○井出博生, 早川雅代, 山田恵子	2022.10
5	一般の人の医学系研究の用語の認知/理解状況と背景 因子/ヘルスリテラシーとの関連に関する検討: 「医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き」作成のための調査結果 第1報	共同	日本ヘルスコミュニケーション学会	○早川雅代, 井出博生, 山田恵子	2022.10
6	シンポジウム ロコモに関する大規模調査データから	単独	第64回日本老年医学会学術集会	○山田恵子	2022.6
7	ロコモ度1, 2, 3と関連する因子 - ロコモ1万人調査を基にして -	共同	日本整形外科学会	○山田恵子, 山口智志, 伊藤陽一, 大江隆史	2022.5
8	異なる年齢層における、運動習慣とロコモとの量-反応関係 ロコモ1万人調査の二次分析	共同	日本整形外科学会	○山口 智志, 山田 恵子, 伊藤 陽一, 佐藤 公一, 富士 武史, 大江 隆史, 大鳥 精司	2022.5
(4) その他					
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	「医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き」の改善と発展	共著	「医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き」成果発表シンポジウム	早川雅代, 小川留奈, 井出博生, 田中祐輔, 山口育子, 山田恵子	2023.3
2	『「医学系研究の成果をわかりやすく発信する手引き」の作成と普及に向けての取り組み』	単著	革新的医療技術創出拠点 令和4年度成果報告会	○山田恵子	2023.3
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称		研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究)		レセプトと健診のビッグデータを用いた歩行速度と入院・心血管疾患発症の関連の検討	研究代表者	2021 - 2023
2	AMED シーズ開発・研究基盤事業部(拠点研究事業課) 研究開発推進ネットワーク事業		「医学系研究の成果をわかりやすく発信する手引き」の普及と改善の提案	研究代表者	2022 - 2023
3. 教育業績					
(1) 講義					
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)	
1	整形外科学	○	15	理学療法学科および作業療法学科の2年生が対象であることを考慮し、図や動画等を多用して視覚的に理解できるよう努めた。2022年度はCOVID-19の影響を配慮して、やむを得ず欠席となった学生を対象に見逃し配信を行った。	

2	リハビリテーション医学概論	○	8	複数の学科の必修・選択科目であることを配慮して、できるだけ簡易な用語を用い、図や動画を多用して視覚的に理解できるように授業を実施した。2022年度はCOVID-19の拡大防止も考慮して、オンデマンドの遠隔授業を行った。
3	リハビリテーション医学	○	15	理学療法学科および作業療法学科の2年生が対象であることを考慮し、図や動画等を多用して視覚的に理解できるよう努めた。2022年度はオンデマンドの遠隔授業を行い、一方向性にならぬよう、理解を深めるために毎回授業の後に小テストを行った。
4	加齢神経運動機能論		2	大学院課程の講義であり、2コマであることを考慮して、特定の「運動器」に関するトピックを提供し、最新の話題を盛り込む等、高度教育課程の学生の理解を助け、学習意欲の向上につながるよう努めた。
5	応用人体構造機能論		4	大学院課程の講義であり、4コマであることを考慮して、特定の「運動器」に関するトピックを毎回異なる視点から提供し、最新の話題を盛り込む等、高度教育課程の学生の理解を助け、学習意欲の向上につながるよう努めた。
6	フィジカルアセスメント_2022		1	大学院課程の講義であり、1コマであることを考慮して、特定の「運動器のフィジカルアセスメント」に絞った講義を行った。できるだけ1コマの授業で、表題について俯瞰できるような授業構成とし、学生の理解を助け、学習意欲の向上につながるよう努めた。
7	保健医療福祉とリハビリテーション		4	大学院課程の講義であり、4コマであることを考慮して、3コマの講義に関しては、特定の「運動器に関するリハ」に絞った講義を行い、学生の理解と学習意欲の向上に努めた。1コマのディスカッションでは、他教員と協力して、学生の統合的な理解が深まるよう努めた。

(2) 演習

	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	臨床画像診断演習 A		8	整形外科を履修した3年次の理学療法学科の学生が対象であることを考慮し、運動器の画像に対し、全ての学生が回答する双方向性の授業を行うことで、理解の助けと学習意欲の向上に努めた。
2	臨床画像診断演習 B	○	8	整形外科を履修した2年次の作業療法学科の学生が対象であることを考慮し、運動器の画像に対し、全ての学生が回答する双方向性の授業を行うことで、理解の助けと学習意欲の向上に努めた。
3	理学療法特別演習		1	4年生を対象に過去の理学療法士国家試験の問題の演習を行った。画像中心に解説を加え、理解の向上に努めた。
4	作業療法総合演習		1	4年生を対象に過去の作業療法士国家試験の問題の演習を行った。画像中心に解説を加え、理解の向上に努めた。

(3) 実習

	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	IPW実習		2022.10 学外実習6日間	4年生を対象に、臨床の遠隔実習を支援した。実習施設及び同施設他グループの教員と共に、多業種連携と統合を支援した。

(4) 論文指導

	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数			
			主指導	名	副指導	名
1	該当なし					

(5) その他

	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	該当なし		

4. 社会貢献活動

(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師

	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	mwe交流会	一般社団法人 医療・福祉・環境 経営支援機構 全国協議会	PHRを用いたロコモ・フレイル予防～PHR(Personal Health Record)：日常生活の運動から予防する	2023. 2
2	大学シーズマッチング会in埼玉県立大学 (オンデマンド配信)	(公財) 埼玉県 産業振興公社	PHRを用いたロコモ・フレイル予防	2022. 12

(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	日本整形外科学会 広報・渉外委員会	委員	2019年 - 2023年	
2	ロコモチャレンジ！協議会	委員	2010年 - 現在	
3	経済産業省事業 保健医療福祉リアルワールドデータ活用 促進のための国際標準化「ヘルス&ケアデータプロセスモデル」国際規格開発委員会	委員	2021年 - 現在	
4	ISO/TC215/WG11(Health informatics, personalized digital health)	expert member	2021年 - 現在	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	m3.com、日経メディカルOnline、CareNet.com	医療用語"QOL"の、一般の方と医療者の受け取り方のギャップについて、3つの医療専門メディアで解説を行った。	2023.3	
2	m3.com	難しい医学研究用語についてどのように説明すべきか、医療専門メディアで解説を行った。「研究参加者にどう説明？『コホート研究』」	2023.3	
3	m3.com	難しい医学研究用語についてどのように説明すべきか、医療専門メディアで解説を行った「ランダム化比較試験、正しい理解は」	2022.10	
4	毎日新聞	「ひとり暮らしの人は、いわゆる地域デビューをしたり、スポーツクラブに通ったり、意識してコミュニティーに参加することが、運動機能改善につながるのでは」とコメントした。	2022.4	
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	学科等における委員会等	奨励研究部会 委員		2022年 - 現在
2	学科等における委員会等	保健委員会 委員		2022年 - 現在
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			